

はな さ き せ つ
花 咲 く 季 節 に

加羅古呂庵 一泉

2021.2.7 作曲

はな さ き せ つ 花咲く季節に

立春を過ぎると、冬の冴えた空気が何となく和^{なご}んできて、オオイヌノフグリの青い可憐な花が咲き始めると、春への期待が膨らんでいきます。小学校に上がる前に住んでいた家は、裏がすぐ田んぼで、冬は稲の切り株ばかりが目立っていたのが、気がつくといつの間にかれんげ草が咲き乱れているのでした。遠くに見える山も、冬のくっきりとした姿から、緑がかってきているようです。そして、春の盛りには一面の菜の花を風が吹き渡っていくのでした。

そんな原体験をもとに、俳句の季語から「れんげ^だ田」「山笑^{やまわら}う」「花菜^{はな な かげ}風」の3つを選んで、箏と尺八による合奏曲を作ってみました。

れんげ草の和名は「紫雲^{げん げ}英」ともいうそうですが、私は子どもの頃から「れんげ」のほうになじんできました。その根にバクテリアが共生し窒素を蓄えるので、田んぼに^す鋤きこんで肥料としたそうです。紫の雲が低くたなびくような「れんげ田」の風景も、今は見かけることがなくなりました。

季語の「山笑う」は、春になって山の木々が芽吹き、花も咲き始めて、明るく生氣に満ちた感じになるさまをいうそうです。れんげ田から見渡すと、そこまでは見えませんでした。春の山は穏やかに優しく見えたものです。

菜の花は、早いところでは1月くらいから咲き始め、5月くらいまで春を彩ってくれますが、その黄色い花色は気持ちも明るくしてくれます。菜の花畑を吹き渡る風が黄色い花々を揺らす頃、私は新しい地に旅立つことになったのでした。花咲く季節は、別れの季節でもあり、新しい世界に胸膨らませる季節でもあります。